



「Catch Ball キヤッチボール」

～地域に開かれた農場を目指して～

住所：〒014-0054 大仙市大曲金谷町 26-9
 電話番号：0187-63-2257・Fax 0187-62-3434(大嶋農場:Fax 兼用 0187-68-2381)
 URL：<http://www.daino-h.akita-pref.ed.jp>
 *農場便りに関するお問い合わせ農場経営部までご連絡下さい。

◆農場長

寒い毎日が続き、ひっきりなしに降り積もる雪。雪国の冬は本当に厳しいものがあります。しかし、このような厳しい条件の中でも我が大農生の頑張りは新聞、テレビ等で取り上げられています。スポーツ分野ではなぎなた部の東北大会優勝、海外研修ではマニラでの専門高校生海外企業研修の様子。きのこの研究分野では正月元旦の秋田さきがけ新聞の掲載とNHK「ニュースこまち」の特別版等大きく報道されました。そして今、生物工学科が中心となつての「世界らん展日本大賞2013」（東京ドーム）への準備。これはNHKが密着取材しており2月17日に放送予定です。このように大農生の頑張りは多くの県民に理解されています。

みなさん、今年も勉強、スポーツ、研究、実習と一生懸命頑張り、大農を活気づけましょう。
 「地域の元気は大農から・・・」

◆施設野菜部門より

ビニルハウス内では、オータムポエムの管理作業を行っています。
 例年に比べて積雪が多く、昨年、屋根部分を張替したばかりのビニルハウスなどの施設が雪の重みで倒壊しないように毎日除雪作業を行っています。
 来月からは来年度収穫するトマトやキュウリの苗作り（播種）が始まります。

◆生物工学部門より

ランの開花が始まりました。
 二月は洋ランの開花期です。今年は雪が多く、気温もあまり上がらないため管理に苦労しましたが、例年になく綺麗な花を咲かせ始めています。世界で本校だけのオリジナル品種ダイノードリームも間もなく咲くと思えます。ぜひ楽しみにしてみてください。
 二月十六日より東京ドームで「世界らん展日本大賞2013」が開催されます。大農もオープンディスプレイに出展予定です。時間の都合がつかましたらぜひ足を運んでください。

◆食品加工部門より

日本初の機内食は肉の燻製品？
 一九二九年八月に、ドイツの飛行船が日本を訪れました。次の目的地ロサンゼルスまでの機内食をどのように調達するかという問題を抱えていました。当時の飛行船の浮力材は水素のため、機内では火気は一切使えませんでしたが、そこでハムやソーセージなどの良質のくん製品を取り入れられたメニューが、提供されたそうです。
 大農のベーコンは希少品？

秋田県産最上品豚肉のロースバラ肉を使用しています。豚半丸枝肉を切断・骨抜き・部分肉選別後、秘伝のスパイスと製法で製品化されます。厳寒期の一月

下旬から二月上旬だけの限定製品となっております。卒業生からは”幻のベーコン”とも呼ばれているようです。

◆小家畜部門より

雪も多く、寒さも厳しいですが、ニワトリは元気に卵を産んでくれています。この季節、販売実習を行うことは少なくなりますが、卵を売っている大農生を見かけましたら、ぜひともお声をかけていただき、卵も買っていたら幸いです。よろしくお願ひします。

また、大嶋農場の鶏舎では、来年度に採卵鶏を新規導入するための準備も進めています。雪の多さと寒さに難儀しながら、生徒は実習を頑張っています。

◆中家畜部門より

一月中旬に元気な子豚を分娩しました。是非、大嶋農場に遊びに来てみてください。

◆大家畜部門より

寒さが厳しい季節です。ウシは寒さに強い動物だと言われています。なぜなら、体の中にカイロがあるからです。どういふことかという点、ウシの胃の中には消化を助けるために微生物がいて発酵しています。発酵するときの熱のおかげで寒さに強いのです。今年度生まれた三頭の仔牛はこの寒さの中で、互いに身を寄せ合いながら順調に成長しています。



◆水田部門より

農舎では、毎日のように雪が屋根から直滑降です。実習の際は頭上注意です。さて現在は、春に向けて土作りをしています。肥料と薬剤を混ぜる作業です。また、機械のメンテナンスも行い、稼働時に不具合が起きないようにしています。

◆花卉部門より

三年生の課題研究で栽培していたストックが開花を始めました。ミニサイズのストックですが、かわいいピンクの花をたくさん付け、温室の中はストックのいい香りでいっぱいです。写真では匂いを届けることができなくて残念です。ぜひ温室へ香をかぎに来て、一足早い春を感じてください。

◆露地野菜部門より

現在、野菜の収穫や調整作業、販売は一段落し、ビニルハウスや通路などの除雪作業に勤しんでいます。ハウスの周りがある雪を除かないとその上に積もった雪が落ちることができず、重さに耐えきれなくなり崩壊してしまうことがあります。そうならないようにするためにも頻繁に排雪をしなければなりません。年間を通して寒暖の差が激しいと作柄が良いと言われます。是非期待したいものです。

◆果樹部門より

大雪かつ厳寒ながら、リンゴの樹は春の開花の準備を整えつつあります。剪定は二月十日過ぎを考えているのですが、一足早く剪定を行っている人物(?)がいます。花芽を斜めにスツパリと!...。少し見難いかもしれませんが下の写真です。こうなると、ここからは果実がなりません。

この犯人はかわいいウサギです。ウサギとの新たな戦い(?)が始まります。かわいいウサギですが、捕まえるのご協力下さい。大農果樹園の未来のために...



◆林業部門より

おかげさまでギンナンとクリが完売となりました。ありがとうございます。なお、例年になく大雪で除雪作業に追われている現状ですが、来年度に影響が出ないよう、樹上の除雪にも今後は手をかけていきたいところです。

編集後記

明けましておめでとうございます。遅くなりましたが、平成二十五年がスタートしました。昨年は、大農120周年記念行事という一大イベントを関係各位を迎え盛大に行う事ができました。各方面からは大農生に対してお褒めの御言葉を頂きました。これは生徒一人一人に対して送られた賛辞です。この良き伝統を130周年、140周年につなげられるようにしていきたいでしょう。

さて、ここ数年秋田県では毎年のように大雪に見舞われている事に気づいているでしょうか。生活する上では、除雪が大変な作業になってきている事でしょう。しかし、農業や環境という側面から考えると、この降雪のおかげで、夏の水不足が起きない県ともいわれています。今出ている湧水は約二十年以上前のものであり、地下には約二十年分の水が貯蓄されています。未だかつて皆さんは生活する上で水に困ったことはないはずですが、冬の降雪は悪い面ばかりではなく良い面もあるのです。

そこで、発想を変えてみてはいかがでしょうか。除雪はしない。軒先の雪はそのままにする。昔の人はそうやって生活していたそうです。冗談みたいですが、二階から出入りする家もあったとか...。また、軒先の雪が外気を遮断し保温性を高めたり...。

近年の住宅事情では考えられない生活状況ですが、自然には逆らわず、自然を楽しみ、自然のままに生活する。先人達の生き抜く知恵が、現在に生きる我々の生活の役に立つものがあるかもしれません。



ん。祖父母や近所の老齢の方々と話をしてみてもいい。人生の先輩達は歩く百科事典です。習うより体験や経験から裏付けされた言葉には非常に重みがあります。色々相談してみるのも悪くないですよ。